

(有)横田農場 茨城県龍ヶ崎市

<http://www.yokotanojo.co.jp>

基本情報

- 気候：温暖地(関東)
- 土質：泥炭土
- 経営面積：125ha
- 従業員19名(役員2名、生産4名、販売2名、加工5名、研究1名、加工パート5名)
- 湿田地帯のため、畑作物の栽培は困難
- 主食用米の他、加工用米や備蓄米を栽培して転作を達成

品目	作付面積	平均区画
水稻(移植)	119ha	30a
水稻(直播)	6ha	50a

経営方針(重視・優先していること、こだわり等)

- 生産物は全て直接販売。低コストで栽培することにより、求めやすい価格で提供
- 圃場の集積、集約により効率的な大規模経営を実現
- 極早生～晩生7品種を組み合わせることにより、長期間の作業体系を確立
- 直播栽培やICTによる作業管理等、新技術の積極的な導入

稲作の施肥・防除におけるコスト低減の取組

- 肥料
 - ① 基肥+追肥の分施肥体系で、基肥は鶏ふんペレットを使用し、追肥は労力削減のため、流し込みで安価な尿素を使用
 - ② ヘアリーベッチを秋に播種し、雑草抑制、肥料を削減
- 農薬
 - ① 除草剤は顆粒剤の水口施用で省力化
 - ② 畦畔除草剤はジェネリック農薬を使用
- 農業機械
 - ① 田植機、コンバイン1台体系により作業することで、稼働率が向上し、減価償却費を削減
 - ② 農機のメンテナンスを自分でを行い修繕費を削減

導入効果

- 施肥
肥料費 ▲約7割
- 防除
農薬費 ▲約5割
- 農業機械
機械費 ▲約7割
- 総労働時間
▲約6割
(農林水産省:H25農産物生産費統計(水稻、関東東山)との比較)

支援体制

- 全国稲作経営者会議に所属し、情報交換、先進地研修を実施
- 大学、国・県研究機関とコンソーシアム(攻めの農林水産業の実現に向けた革新的技術緊急展開事業)を形成し、農業経営者として、新技術の開発・実証を実施

課題・今後の目標

- 流し込み追肥は、ムラにならないよう、圃場の準備が重要
- 異常気象に対応できる栽培技術、診断技術の確立
- 密播育苗による、育苗・移植コストの削減



流し込み施肥

除草剤の水口施用